代々木病院の理念
ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 665　2022年3月号
1部60円
友の会会員は会費に含まれています
発行　東京勤労者医療会代々木病院
院長　河邉　博正
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
TEL 03(3404)7661
http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi

戦争準備の軍備拡大より平和、いのち、くらしを優先に

憲法9条こそ最大の安全保障、大軍拡、大増税NO

いま日本は、大軍拡から戦争への道を突き進むのか、憲法を生かし平和とくらしを守るのか、大きな岐路に立っています。昨年12月岸田内閣が「安全保障の3文書（国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画）」（以下、3文書）を閣議決定しました。相手国領内への「反撃能力（敵基地攻撃能力）」の保有を盛り込むなど、憲法の恒久平和主義に基づく戦後日本のあり方を根本から変え、軍事力強化に軍事費を5年間で計43兆円と大幅に増やし、憲法・平和・くらしを破壊するものです。

「専守防衛」から逸脱する敵基地攻撃、国際法違反の「先制攻撃」に

「敵基地攻撃能力（反撃能力）」の保有は、これまで国是としてきた「専守防衛」を根本から覆すものです。

「専守防衛」は戦争の反省にたって定めた憲法前文や9条のもと戦後の歴代内閣が堅持してきたものです。過去の政府見解では、「攻撃を受けたときに初めて防衛力を行使し、そのありかたも自衛のための必要最小限にとどめる」、「専守防衛」を踏まえ、敵基地攻撃自体は他に対抗手段がない場合は「自衛の範囲内」と認めつつも、他国に攻撃的脅威を与える兵器を平素から持つことは「憲法の主旨ではない」としてきました。

また、敵基地攻撃能力は「ミサイル防衛の補完」としていますが、相手国が「攻撃に着手した」段階で「撃たれる前に敵の基地をたたく」ことを前提としているため、国際法違反とされる「先制攻撃」につながる危険性があります。

代々木病院玄関で「軍拡より生活、平和な未来を」とアピール

米国の戦争に巻き込まれ、日本国土にも大きな被害が

アメリカは「台湾有事」など中国に対抗するため、沖縄など南西諸島を含む軍事拠点を直接攻撃可能な長距離弾道ミサイルを配備するなどして強化しようとしています。もし台湾を巡り米中で戦争になった場合、2015年に成立した安保法制により日本が攻撃されていなくても、米軍支援のため相手国領域にミサイル攻撃などを行うことが想定されています。これにより中国から反撃を受けると、日本も大きな被害がでるとされています。3文書は「日本を守る」ものではなく、「米国の戦争に日本を巻き込む」ものです。

軍拡は際限なき軍拡競争へ、戦争のリスクが増大

日米安全保障協議委員会（2プラス2）でも、「米国の拡大抑止」は「日本の能力によって強化される」としており、日本の軍事増強に支持を表明しています。しかし「先制攻撃」が可能な軍備を増強すれば、周辺諸国のさらなる軍拡につながり、際限のない軍拡競争に陥ることになります。軍拡は「台湾有事」の阻止になるどころか、台湾海峡の緊張を高め、戦争のリスクを増大させます。

軍事費増強のため、くらし破壊の大増税、社会保障削減も

軍事費を5年間で計43兆円に増やすとGDP比2%水準となり、アメリカ、中国に次ぐ世界3位の軍事大国となります。

各国の軍事支出（2020年）

順位	国名	金額（ドル）
1	米国	7780億
2	中国	2520億
3	インド	729億
4	ロシア	617億
5	イギリス	592億
6	サウジアラビア	575億
7	ドイツ	528億
8	フランス	527億
9	日本	491億
10	韓国	457億

倍増なら3位に
※ストックホルム国際平和研究所の資料に基づく
出典：「東京新聞」4月9日付より

これまで日本は平和憲法による「専守防衛」を国是とし軍事費はGDP1%内としてきたことが近隣諸国に安心を供与し、平和の構築に寄与してきました。

岸田政権が閣議決定した2023年度政府予算案は「防衛関係費」が前年度比89%増で1・9倍の増額、一方で社会保障やくらしの予算を軒並み削減、コロナ危機や物価高騰への対応はまったく不十分です。社会保障費は高齢化で増える「自然増」の伸びを1500億円圧縮し、75歳以上高齢者の医療費窓口負担の2倍化など「自然増」を削減。公的年金の支給額も抑制し、物価高で実質減です。歳入面では物価高騰で必要性が高まっている消費税減税を求める声は無視し、消費税収の2023年度見込みは23兆円超と4年連続で最大の税目です。

国民のくらしを犠牲にし、「戦争する国づくり」に財政を総動員するのは、日本がアジアへの侵略戦争でたどった道です。戦費調達を目的とした国債を大量に発行し、際限のない軍拡に突きすすんだ歴史を繰り返してはなりません。

千駄ヶ谷駅前で「大軍拡、大増税NO」と訴え

大軍拡は戦争への道、憲法9条こそ最大の安全保障

大軍拡は「専守防衛」に徹して他国に脅威を与えないとしてきた大原則を踏み越え、戦争へ突き進む道です。長距離射程のミサイル購入は他国にとって脅威です。国と国との間で脅威が高まった先に待っているのは戦争です。憲法9条の戦争放棄にてらした外交努力こそ脅威を生まない最大の安全保障です。戦争準備の大軍拡・大増税ではなく、平和、くらし、いのちが最優先される政治が求められています。

千駄の萱

昨日の夜、自宅のトイレのタンクに不具合が出て修理していた。ことのついでにトイレ掃除もした。そんな時、濱口國雄の「便所掃除」という詩を思い出した。この詩の最終連はこんな風に締めくくられる。「便所を美しくする娘は　美しい子供をうむ　といった母を思い出します　僕は男です　美しい妻に会えるかも知れません」。この詩が書かれたのは1950年代半ば。現代の感覚にはそぐわないと思われるところも多々あるが、凛とした雰囲気のある堂々とした詩だ▼かつては小学校でも子どもたちが便所掃除をしていたと聞く。子どもたちが学校で便所掃除をしなくなったのはいつ頃なのだろうか。筆者が小学生の頃には、すでに清掃業者が行っていたように記憶している。子どもたちが便所掃除をしなくなって以降、日本人はとてつもなく大きな、そして大切な何かを失ったように思うのだが、思い過ごしだろうか▼現代は、見たくないものを見ず、あたかも存在しないかのように扱う世の中になっていないだろうか。どちらにせよ、せめて我が子には、便所掃除の清々しさを感じてほしいと思う。（け）